名古屋地方の時事新報賣捌所

從來名古屋地方の時事新報賣捌方は同地の石版舎に委託し居たれども今般都合よりて之を廢し更に名古屋桑町百四十二番戸金鯱館と特約を結び同地方の賣捌を取扱はせ候間以後同館へ御注文相成候得ば名古屋丼に其近傍へ無遅滞料にて時事新報配達可仕候又是迄石版舎より時事新報御購讀被成下候方々は御手數ながら此際右金鯱館へ更る御注文被成下候様奉願候

時事新報へ一年三百六十五日一日も休刊セズ其代價遞送料廣告料へ左ノ如シ

一枚二錢〇一箇月前金五十錢〇三箇月前金一圓五十錢〇六箇月前金三圓

〇一箇年前金六圓

〇時事新報社ヨリ直接ニ郵便ニテ送達スルモノニ限リ右定價ノ外ニ一箇月二十六錢ノ郵送料ヲ申受ク

時事新報廣告料前金

五號活字ニテ一行ヲ即チ字詰	一行ニ付一日限	一行ニ付二日以上六日迄	一行ニ付七日以上十五日迄	一行ニ付十六日以上
百一行並ニ十行百十一行迄廣告行	十錢	八錢	七錢	二厘
八錢	九錢	七錢	六錢	三厘
六錢五厘	六錢五厘	五錢八厘五毛	五錢	五厘

時事新報

病人の用に供するソップの製方

ドクトル、セメンズ原文の飜譯

近代日本文明の進歩著しき中にも古來その國に行はれたる漢方の醫術を捨て其代りとして西洋學術的の治方を採用しさるが如きは最も著明なるものゝ一にして僅ゝ十五年ゝ其間に國内數多の熟練なる内外科の醫師と出し以前あらば漢方醫家の手ゝ其死を免れざりし病者も爲めに回陽の幸福に遇ひし者その數、幾百千人に下らず特に外科的の治術に於て其奏功の著しきは世人の驚いざる所なるべし扨て病人の滋養に供する飲食物は醫藥と同樣にして最も大切なることは今更申す迄もなき處なるゞ不幸にも日本にては醫風の漢方より洋方に變ずる其際ゝ病人の飲食ゝ關する事は甚だ錯雜を極むるに至りゝり並し其錯雜の一大原因とも云ゝ可べい日本にて飲食の始末は通例家族の受持とする中にも一家中のお婆アさんは病人に進むる飲食の調理ゝ精しきれみならず病人の看護と給仕の事にも巧ミなるよりして是等の事は取分けお婆アさんの受持とありし事情に就て求む可き者の如ゝ今のお婆アさんは其生れ何れも早くして看護婦たるべき今代の教育を受けざるが故に（富有の人も病氣の折には嘗て古風無知なる召使共の看病と受ることなれども看護婦の教育行はるゝは此種の人の爲めに甚だ宜しきみとなり）勿論ソップ其他洋方醫家の要する飲食物を製するの術を知るものなし余は今在に余が數年幾多の經驗を以て病人に進むる飲食物製方の實に容易あらざることを開明流の日本人ゝ說明せんと欲するなり而して余は此說明をなすに特にこの十年乃至十五年日本に滯在の其間余一人もしくは日本の醫師と協議の上、幾百千の病家を見歸ひたる實歷に就て之を陳ずべし勿論病家にては前以て余が外國醫師たるゝことを知るが故に余の方より斯く〳〵望むおらんと思ふ所の事は總て日本醫師の同意又は助言と以て孫かじめ板目なく用意し置けり斯くて病人の脈を診し舌を檢し且其受持の醫師より何々の藥劑を與へ居れりとの事をも聞きさる上にて余は看病のお婆アさんに「病人ゝドンナ物を上りますか」と問ふに、お婆アさんは直に「ハイ」と答ふ、依て其ソップの一見を請ひ直に持來れば取取へず「ムのソップはお前さんが始へたしたか」と問ふにお婆アさん答へて「イヽヘ私の拵へたのではありません私ハドーレテ拵へるのかソップの製方を知りませんから近所の牛肉店から求めました」と云ふ余は先づそのソップを檢するに上面に油の分子浮びて然かも惡臭ある只の濁れる水汁と思はしきものなりければ余は重ねて「病人は此ソップを飲みましたか」と問へば お婆アさんは「ハイ一度に二三匙づゝ飲みますが大層忌やがります」と答ふ、依て余は其ソップを味ひたるゝ病人の忌やがるも道理にまろと思はるゝのみならず猶ほ其上に右のソップ中には爪垢ほどの滋養分さへなきことを見出しぬ余は又お婆アさんに向て「お前さんはナセお粥、卵酒その外お前さんの手で立派に拵へる事の出來る日本の食物を病人にお上げあるさらぬ」と云へば「私も左樣らさく思ひますけれども私のお醫者は水藥醫者で、お粥などは古風のもれで賣ひになふぬからソップと拵へるが宜しい、夫れが出來ぬるら牛肉店から買て來るが宜しいと申されましたけれども私は不得心でソップは手製の食物より費も多く匂ひは惡るし夫れに第一病人が好きませんと云ひましたら私の子供等はふれを聞きお婆アさんは夫保婆ゝアだ未だ昔しの日本の野蠻風が脫けぬと嘲りました此分にては私はもはや人の母として子供等より敬まはるゝ一家の年寄役あらで却て家の下女に等しく前途如何成行くやら分らずと嘆息して物語りたり

以上は余が毎度實驗あさる所にして鄙見と以てすれば右お婆アさんの說は過半正當あるものゝ如し前に述べたる如く實文明より新文明に移るの間、事に多少の錯亂を生じ且つ種々間違ひの行はるゝい致方もなきまでにして兎に角ゝ日本人ゝ事々物々如何なる方角よりにても改進の路に進まんとするの大望を抱くは實ゝ驚くべく又嘉すべき（實贊を價すべき）ことあれども極度に至れば時として其模倣したる物の利用法をも知らず して只その物のミを真似んとするの弊なるにあらず即ち前に記しさる粗造濫製にして滋養の効力、遠くお粥にも及ばざるソップの如きゝ其一例にして數多の人民はこの間違の爲めゝ死を致しさるものありと云ふも余い過言にあらざるべしと信ずるゝあり左れその製方宜しきを得ばソップゝ實に病人要用の食物にして長病又ゝ大病の場合ゝ於てゝ殊に然りとすれども牛肉製のソップは只その製方の宜しきを得ると費ゝのみあらず之をして有効ならしめんとするには其分量の十分なるを要するものと知るべし勿論良製のソップを得て之を用ふるゝも彼のお婆アさんの手に慣れ且つは病人の口に適するお粥その他の食物と共〳〵に之と用ひ決して是等の品を忌ひに及ばざることなり余は今左に病人の食用に供すべき牛肉茶（ビーフ、チー）と稱するソップの製方を記述すべし

牛肉一封度（凡百二十匁）と細かに刻み之脂肪のなき牛肉一封度（凡三合）を加へ放置すること三時間ゝ冷水一ピント（凡五合）の後火に掛け沸騰せざる樣に徐々に之れを煮ると又三時間、ろの間水の蒸發もるに嘗ひれを足して三時間の終りにも最初加へたると同量の水を保たしむると雖とも煮きさる上にて余は看病のお婆アさんに「病人ゝドンナ物を上りますか」と問ふに、お婆アさんは直に「ハイ」と答ふ、依て其ソップの一見を請ひ直に持來れば取取へず「ムのソップはお前さんが始へたしたか」と問ふにお婆アさん答へて「イヽヘ私の拵へたのではありません私ハドーレテ拵へるのかソップの製方を知りませんから近所の牛肉店から求めました」と答ふ、依て余は其ソップを味ひたるゝ病人の忌やがるも道理にまろと思はるゝのみならず猶ほ其上に右のソップ中には爪垢ほどの滋養分さへなきことを見出しぬ余は又お婆アさんに向て「お前さんはナセお粥、卵酒その外お前さんの手で立派に拵へる事の出來る日本の食物を病人にお上げあるさらぬ」と云へば「私も左樣らさく思ひますけれども私のお醫者は水藥醫者で、お粥などは古風のもれで賣ひになふぬからソップと拵へるが宜しい、夫れが出來ぬるら牛肉店から買て來るが宜しいと申されましたけれども私は不得心でソップは手製の食物より費も多く匂ひは惡るし夫れに第一病人が好きませんと云ひましたら私の子供等はふれを聞きお婆アさんは夫保婆ゝアだ未だ昔しの日本の野蠻風が脫けぬと嘲りました此分にては私はもはや人の母として子供等より敬まはるゝ一家の年寄役あらで却て家の下女に等しく前途如何成行くやら分らずと嘆息して物語りたり

以上は余が毎度實驗あさる所にして鄙見と以てすれば右お婆アさんの說は過半正當あるものゝ如し前に述べたる如く實文明より新文明に移るの間、事に多少の錯亂を生じ且つ種々間違ひの行はるゝい致方もなきまでにして兎に角ゝ日本人ゝ事々物々如何なる方角よりにても改進の路に進まんとするの大望を抱くは實ゝ驚くべく又嘉すべき（實贊を價すべき）ことあれども極度に至れば時として其模倣したる物の利用法をも知らず して只その物のミを真似んとするの弊なるにあらず即ち前に記しさる粗造濫製にして滋養の効力、遠くお粥にも及ばざるソップの如きゝ其一例にして數多の人民はこの間違の爲めゝ死を致しさるものありと云ふも余い過言にあらざるべしと信ずるゝあり左れその製方宜しきを得ばソップゝ實に病人要用の食物にして長病又ゝ大病の場合ゝ於てゝ殊に然りとすれども牛肉製のソップは只その製方の宜しきを得ると費ゝのみあらず之をして有効ならしめんとするには其分量の十分なるを要するものと知るべし勿論良製のソップを得て之を用ふるゝも彼のお婆アさんの手に慣れ且つは病人の口に適するお粥その他の食物と共〳〵に之と用ひ決して是等の品を忌ひに及ばざることなり余は今左に病人の食用に供すべき牛肉茶（ビーフ、チー）と稱するソップの製方を記述すべし

牛肉一封度（凡百二十匁）と細かに刻み之脂肪のなき牛肉一封度（凡三合）を加へ放置すること三時間ゝ冷水一ピント（凡五合）を加へ放置すること三時間